

## 植物多様性センターの「サネカズラ」

常緑のツル性木本で、雌雄異株又は同株。花は余り目立たず葉の裏陰に咲くが、よく見ると雄花と雌花で花の中の色が違います。雄花は球状の雄蕊が赤く、雌花は球状の雌蕊が緑色。双方ともよく見るとミクロな構造が見えます。花弁のように見える黄白色の花被片は多いと10枚を超えます。11月になると実が赤く熟し、僅かに褐色を帯びた葉とは対象的によく目立ちます。樹皮から取った粘液を整髪に使ったことから、ビナンカズラ(美男葛)の別名もあります。特徴的な姿が愛され、古歌にも多く詠まれています。



蠟細工の様な花被片  
雌花(左)と雄花(右)



大きな葯隔の両端に半葯  
平開し全体が花粉まみれ



球状に集まった子房  
隙間から白い柱頭が覗く



実は真っ赤に熟し  
鳥を誘う様に輝く